

失敗からの学び、やる気が人を動かす、 チーム美郷コイルに感謝！

前職では公務員として働きながら夜間大学に通い、4年間必死の思いで法律を学んだ経験を持ちながら、全く経験のない家業に従事することとなった田村社長。休日はサッカー経験がないのに高校サッカー部の外部コーチとしても活躍しているそうです。(驚きです！)

そんな意外な一面もある田村社長にお話を伺いました。

高橋 電気機器部品の製造会社とのことですが、具体的にどのような機器を製造されているのですか。



田村 当社ではコイルと各種トランス(変圧器)の製造を行っています。コイルは電気と磁気を互いに作用させて電流や電圧を制御するための機器で、トランスはそのコイルを2つ組み合わせて電圧を変える機器です。主に日常生活で欠かすことのできない家電製品の電源装置(基盤)に組み込まれており、その製品に応じて任意の電圧に変える装置です。一番小さいものでおよそ10ミリ角のものから

100ミリ角のものを製造しています。

高橋 私は、初めて「(有)美郷コイル」という事業所名を聞いた時に、ベットのマットレスの中に入っているコイルを想像していました(笑)。社長が事業を始められたのはどのようなきっかけですか。

田村 昭和61年8月、私の父親が旧六郷町において「田村製作所」を創業しました。父親が早くに亡くなり、母親が後を継いでいましたが、夜間大学を卒業するタイミングで専従者として従事することを決め、平成5年に帰郷しました。その後、「有限会社コイル」として法人化し、平成16年に社名を「有限会社美郷コイル」に改め、私が事業を承継して代表取締役となり20年が経ちました。

高橋 前職や大学で学んだ法律とは違う分野の家業に就かれたことに不安はなかったのですか。

田村 本当にゼロからのスタートになりました。最初は内職回りや納品など、力仕事と顔見せから始まりました。納品先の担当者や経験豊富な従業員から仕事を教えてもらうこともありました。もちろん自分でも勉強をしましたが失敗の繰り返しでした。ただ、そこから学んだことも多く、これが今でも生きています。正直、途中で嫌になり辞めて他の仕事をやってみたいと思ったことが何度もありました。しかし、承継当時から会社の借金があり、返済していかなければいけないという責任感が事業継続の大きなモチベーションとなっていました。

高橋 前職とは畑違いの家業に飛び込んだ勇気はすごいと思います。失敗から学ぶことが多くあるという点は私も同感です。

【田村社長への支援の中で印象に残っているものは、また、そのときの思いとは】

高橋 事業復活支援金の申請支援がきっかけで、連絡をとることが多くなり、社長との距離が近くなって話しやすくなりました。前任者から「意欲ある社長のやる気に応えてほしい」との思いを託された私でしたが、製造業者への支援は初めてであり、知識も経験もない自分に不安を感じプレッシャーに押しつぶされそうになっていましたが、田村社長の前向きな思いに何とか



応えたいという一心でお話を聞き、調べ、アドバイスをさせていただくということを繰り返し、自分自身、とても勉強になりました。特に、私にとっても初めての「ものづくり補助金」の申請支援にあたっては、自分なりに精一杯支援させていただきましたが、結果発表までの期間は本当に不安な日々を過ごし、夢に見るほどでした。

結果、6月23日に無事採択の発表があり、その日は私の誕生日でもあり、大きなプレゼントをもらったようでとてもうれしかったです。

【商工会の支援についてどのように感じているか】

田村 高橋さんの一生懸命さを感じます。具体的でわかりやすいアドバイスをしてくれるので、それに応えなければと逆に私自身が動かされている感じがしています。

最初は、補助金があることは知っていましたが、それが何に対して活用できるのかよくわからず、ややこしいイメージがあったので、自分には縁がないものだと思っていました。しかし、相談するたびに高橋さんからわかりやすく情報提供を受け、「よし！やってみよう」というきっかけになりました。

ものづくり補助金の申請にあたっては、アドバイスを受けた事業計画のタイトルがとても核心をついていて、一行でA4・4ページ分の効果はあったと思っております。採択は高橋さんの支援の賜物です。本当に助かりました。

これまでの支援に対しては「感謝」の一言しかありません。商工会を始めとして、取引先や金融機関、税理士、従業員、協力工場、作業員などこれまで当社を支えてくれている方々がそれぞれアドバイスをくれたり、同じ方向を向いて連携し、私の知らないところでも動いてくれている、まさに「チーム美郷コイル」として支えてくれていることに感謝です。

高橋 田村社長のやる気があるからこそ周りの皆さんが応援してくれて、皆さんを動かしているのだと思います。社長からの「ありがとう」が私の仕事のモチベーションにもなっています。これからも一つ一つ信頼を築き上げていければと思っています。



【今後はどのような事業の展開を望むのか】

田村 受注面では、今回のものづくり補助金での導入設備で生産工程の一部を自動化して生産量を拡大することができるため、取引先を東北、関東、東海方面へ増やし安定した受注を確保していきたいと考えています。

製造面では、従業員の労働力確保が生産性向上への必須条件であり、従業員の高齢化対策も含めて次世代へつなぐ人材確保が課題だと感じます。

高橋 社長の望む支援に精一杯応えていきたいと思っています。引き続きよろしくお祈りします。

有限会社美郷コイル

代表：田村 淳
住所：美郷町六郷字本道町56-4
TEL：0187-84-0177

昭和61年8月、現代表の父親が「田村製作所」を創業。平成16年に、「有限会社美郷コイル」に改め、現代表が承継した。美郷町と大仙市に工場を持ち、コイルやトランスの製造を行う。

